



体験的な学びを通して自分に向き合い キャリアを創る視点を磨く

法政大学 キャリアデザイン学部



体験的な学びを通して、論理的な思考力を鍛える

多くの社会人や地域の人たちとかわる中で、自分のやりたいことを相手にも共感してもらい、ともに課題を解決するためには、論理的に考えて物事を進めなければならないことを実感しました。(檀山さん)

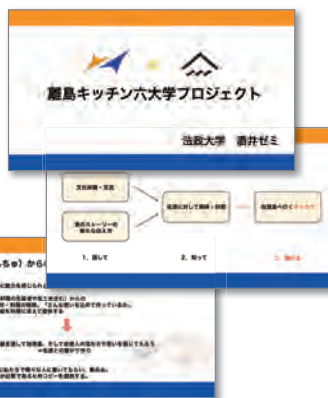


やる気をアピールすることで 学びがどんどん広がる

待っているだけでは学びは広がらないと実感しています。私は、2年次のインターンシップで訪れた出版社に自ら交渉して、3年次もインターンシップを継続させてもらっています。(永田さん)

企業や自治体との協働で、 実践的なマーケティングを学ぶ

ゼミ活動では、企業や自治体と協働でプロジェクトを進めていきます。責任も伴い大変ですが、実践的なマーケティングを学ぶことができ、社会人としての対応力も身につけられました。(下池さん)



キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科3年
下池瞳華
しもいけ・とうか
東京都立文京高校卒業。
サービス業への就職を志望。



キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科3年
檀山ゆりか
はぜやま・ゆりか
埼玉県立和光国際高校卒業。
キャリアカウンセラーを志望。



キャリアデザイン学部
キャリアデザイン学科3年
永田紗也
ながた・さや
埼玉県・私立浦和明の星女子中学・高校卒業。
出版業界への就職を志望。

社会の中での自分を 相対化して捉えていく

生き方や働き方の多様化や変化に伴い、自分のキャリアを設計し、状況に応じて修正する力がこれまで以上に求められている。法政大学キャリアデザイン学部は、自身のキャリアをデザインするとともに、他者のキャリアを支援する力の育成を目指している。

1年次は、キャリアデザイン学を全般的に学び、2年次以降の授業では、体験的な学びをベースとして専門科目を履修する。体験型選択必修科目では、企業でインターンシップを経験する「キャリア体験学習」、高校などでキャリア教育を実施する

「キャリアサポート実習」など、6科目から1つを選択。企業や地域での体験学習を通して、学生は社会の中での自分を相対化して捉え、その後の学びにつなげていく。出版社でのインターンシップを経験した永田紗也さんは、次のように振り返る。

「実習先では、学生でも社員同様に厳しく接してくださり、自分の発想の乏しさや知識不足を痛感しました。しかし、『何でもやります』と

積極的に仕事に取り組んでいると、フリーペーパーなどの企画や取材、執筆も任されるようになりました」

また、ブライダル企業でのインターンシップを経験した下池瞳華さんは、「憧れの業界で働くことができたのに、自分は受け身の姿勢だったと反省しています。その後の授業やゼミ活動では、多角的な視点から考えて、自分から積極的に提案していくことを意識しています」と語る。

企業や自治体との協働で 論理的な思考力を育む

2年次後半からのゼミ活動も、体験的活動を中心に展開する。マーケティングを研究する「酒井ゼミ」では、企業や地方自治体と連携したプ

ロジェクトの運営などを行う。学生はプロジェクトのコアメンバーとして参加するが、どのプロジェクトでも、連携先が実際に抱えている課題を解決するための提案が求められるため、ハードルは高い。

そうした経験を通じて実感することの1つが、論理的な思考の大切さだ。長野県飯田市の伝統工芸・水引を活性化させるプロジェクトを推進する榎山ゆりかさんはこう語る。

「初めは自分の好みといった感覚で企画を考えていましたが、それでは相手を納得させられません。現状や課題をしっかりと分析し、『なぜそうするのか』を論理的に説明することの大切さを実感しました」

榎山さんは、水引が衰退した一因は祝儀袋などが使われなくなったことにあると分析。東京・神楽坂でのイベントで、水引をつけたメッセージカードを作るワークショップを開き、若い世代を中心に好評を得た。

下池さんは、日本各地の郷土料理を月替わりで提供する飲食店で、新潟県佐渡島の魅力をアピールするプロジェクトに参加した。実際に島を訪れ、生産者の方の話を聞いたり、現地調査を行ったりして、メニュー

を考案。仕入れ先との交渉なども行っている。

「自分1人で考えるより、企業や地域などの人の話を聞くことで新しい発想が生まれることを実感しました。また、仲間と仕事を分担し、1つの目標に向かうことも意識するようになりました」（下池さん）

体験を通して気づきを重ね 自身のキャリアを設計

社会の中での自分を意識すること、将来のキャリアを具現化していく。永田さんは次のように話す。

「私は、カメラメーカーと共同で、SNSを使った販売促進企画を考えるプロジェクトに参加しました。出版業界志望ですが、この経験を通して、多様なメディアを活用して表現することの面白さも知りました。自分、社会の中でどのように貢献できるのかを考えてスキルを高め、キャリアを築いていきたいと思います」

「自分はアイデアを考えることが得意だと思っていました。様々な活動を通して、人にかかわり、影響を与えることの意義深さを実感し、人を育てる仕事に就きたいと思うようになりました」（榎山さん）

大学の思い

社会の中の自分を見つけて 意欲や目標を高めていく



キャリアデザイン学部
教授
酒井 理
さかい・まさむ

将来の変化を予測することが困難な時代を迎え、求められるスキルも多様化しています。そうした社会で自立するには、自ら学び続け、求められるスキルを習得していかなくてはなりません。そのため学びの方法を身につけさせることが、本学部のねらいです。本学部では、企業や地域と連携した体験的活動を早いうちから行うことを大切にしています。そうした経験を通して、社会の中での自分を意識したり、不足している力に気づいたりして、より高い意欲や目標を持って学ぶようになりま。実際に、インターンシップで自分のふがいなさを感じてくじけそうになりながらも、奮起して前向きに学びを進める学生は少なくありません。

ゼミ活動では、課題の分析に基づいて仮説を設定し、実際にプロジェクトを展開して、検証論文を作成します。そのプロセスは、社会科学における「実験」であり、常々論理的に思考することの大切さを指導しています。そうした身についた思考力が実際の社会で役立つものであることは、多方面で活躍する卒業生の姿にも表れています。